平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	スポーツ社会学 (Sport Sociology)			授業コード	E048651
担当教員名	永松　昌樹			科目ナンバリングコード	E30713
配当学年	3	開講期	後期		
必修・選択区分	選択	単位数	2		
履修上の注意または履修条件	○テキストは、講義に必携すること。 ○演習ノートの作成は手書きとし、A4版レポート用紙の左上をステーブル等で留めること。				
受講心得	○経営経済学部の定める「受講心得等」を守ること。				
教科書	スポーツの社会学・池田勝／守能信次編・杏林書院				
参考文献及び指定図書	スポーツの経済学・池田勝／守能信次編・杏林書院 スポーツの政治学・池田勝／守能信次編・杏林書院 生涯スポーツの社会経済学・池田勝編・杏林書院				
関連科目	スポーツマーケティング				

授業の目的	人間とスポーツは、政治、経済、社会、文化、生活のあらゆる側面と深い関わりあう時代となった。国際政治や経済の動向とも相互に影響を与えあう関係にもある。この科目では、現代におけるスポーツと社会との関係を社会経済学的な観点から論考する。 受講生の日常的な生活を見つめ直しながら、社会とスポーツの関係を考察することを出発点とし、地域社会、国際社会へと現存する多様な問題意識を広げ、課題解決への提案作成のできる能力を得ることが到達の目標となる。
授業の概要	この科目では、予習→講義→復習により、各回の演習ノート提出が求められる。 予習では、1時間程度の学習が要求される。シラバスに示したテキスト部分を読み終え、毎回の鍵概念と自身の生活との関係についての感想と意見をまとめることが必要となる。講義時において、各自の感想と意見を発表することが要求される。 90分の講義では、テキストでは示されていない具体的な事例や最新のニュースなどを取り上げ、スポーツ社会学の理論モデルと鍵概念の理解を深める。また、受講生各自が予習によって持ち寄った疑問を取り上げ、復習において受講生各自で作成する演習ノートの課題として提示し、解決方策を考えるうえで有用と考えられる統計などの情報を提供する。 復習では、A4版レポート用紙(2ページ分)の演習ノートを作成する。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 ： 現代社会とスポーツ 有閑階級の理論　リスボン宣言	教科書の準備 シラバス確認・演習ノート
第 2 週 ： スポーツの広がり① 体力・スポーツに関する世論調査　スポーツライフに関する調査	鍵概念の理解 教科書予読・演習ノート
第 3 週 ： スポーツの広がり② スポーツ人口の階層構造　スポーツ参加阻害因子	鍵概念の理解 教科書予読・演習ノート
第 4 週 ： スポーツの広がり③ 女性のスポーツ　高齢者のスポーツ	鍵概念の理解 教科書予読・演習ノート
第 5 週 ： スポーツの社会化①	鍵概念の理解

アヴェロンの野生児　社会化論	教科書予読・演習ノート
第 6 週 ： スポーツの社会化② スポーツ参与の概念モデル　スポーツへの社会化モデル	**鍵概念の理解** 教科書予読・演習ノート
第 7 週 ： スポーツの社会化③ 象徴的相互作用論　クオリティ・オブ・ライフ	**鍵概念の理解** 教科書予読・演習ノート
第 8 週 ： 少子社会とスポーツ 合計特殊出生率と平均出生児数　スポーツ少年団	**鍵概念の理解** 教科書予読・演習ノート
第 9 週 ： 高齢社会とスポーツ 老年学　レジャー白書	**鍵概念の理解** 教科書予読・演習ノート
第10週： スポーツの社会的基盤 学校体育と社会体育　スポーツクラブ	**鍵概念の理解** 教科書予読・演習ノート
第11週： 商業主義とスポーツ オリンピック憲章　放映権料	**鍵概念の理解** 教科書予読・演習ノート
第12週： スポーツとマスメディア メディアによる制度への影響　テレビ番組制作の3つの原理	**鍵概念の理解** 教科書予読・演習ノート
第13週： スポーツとジェンダー ジェンダー・ロール　タイトルⅨ	**鍵概念の理解** 教科書予読・演習ノート
第14週： スポーツとノーマライゼーション パラリンピック　スペシャルオリンピックス	**鍵概念の理解** 教科書予読・演習ノート
第15週： スポーツの社会病理 ドロップアウト　ドーピング	**鍵概念の理解** 教科書予読・演習ノート
第16週： 期末試験	**スポーツ社会学まとめ** 振り返りと課題の明確化

授業の運営方法	（1）授業の形式	「講義形式」
	（2）複数担当の場合の方式	
	（3）アクティブ・ラーニング	
地域志向科目		
備考		

〇単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	予習によって生じた疑問を講義の受講によって理解を深め、さらに復習を進めること。
【知識・理解】	講義で取り上げる鍵概念の理解、社会とスポーツの関係を考察することを出発点とし、地域社会、国際社会へと現存する多様な問題意識を広げ、課題解決への提案作成のできる能力を得ること。
【技能・表現・コミュニケーション】	受講者自身のキャリアや周囲の状況と考え併せ、自らの言葉で語り記すことができること。
【思考・判断・創造】	受講生各自の問題意識と課題解決への提案とその独創性を作り上げること。

〇成績評価基準（合計100点）	合計欄	100点

到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等（テスト）	レポート・作品等（提出物）	発表・その他（無形成果）
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	10点		5点
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。	10点	15点	
【技能・表現・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	10点	15点	5点
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	10点	15点	5点

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	予習によって生じた疑問を講義の受講によって理解を深め、さらに復習を進めることによる学修の深化を、受講生各自の問題意識と課題解決への提案内容の具体性について確認する。演習ノートは評価後、受講生へ返却する。各回の演習ノートの評価得点は、優３点・良２点・可１点・不可０点とする。
発表・その他（無形成果）	講義中の発表や発言の内容にテーマに対する関心・意欲・態度について確認する。特に、独創的な考え方を論理的にコメントすることが望まれる。